

歴史 紹介

特集

那覇市水道70年のあゆみ



配水管埋設工事の風景(昭和7年)



通水を開始する照屋那覇市長(昭和8年)

那覇は昔から水源に乏しく、飲み水は雨水や井戸水に頼ってききましたが、昭和の初めごろ、宜野湾に水源が発見されたことをきっかけに、はじめて水道による給水が開始されました。しかし、後の大戦で給水施設のほとんどが破壊されてしまいました。

その後、簡易水道による給水の再開、米軍からの泊浄水場等の返還などをうけて、本格的な給水事業が再開されました。以降は、隣接2市1村(首里・真和志・小禄)の合併、市内の人口増などにより水需要が増大するようになったため、水道設備の拡充が図られていきました。



返還された泊浄水場(昭和29年)



首里配水池を増設(昭和41年)



水道局庁舎は
昭和43年に完成しました



夜間の給水制限に伴う
バルブ操作



給水制限時は理髪店でも
洗面器を使っていた

しかし、水源に乏しい沖縄では、給水制限も頻繁におこなわれました。特に、昭和56年の制限給水は326日間という非常に長期にわたるものでした。



集中監視センター(平成3年完成)



泊配水池(平成14年完成)

今日では、北部ダムの整備や海水淡水化施設(県企業局)の完成などで、断水も少なくなってきました。那覇市でも平成14年の泊配水池の完成で、施設の拡充整備はほぼ完了しました。

水道局のこれから ~なは・水・みらい~

これからは、渇水や災害時に備えての施設の強化、計画的な施設更新、鉛管問題など水質管理の充実をはかり、水道を使用する皆様に、安心して、満足いただける水道をめざしてまいります。

これからも
那覇市水道局を
よろしく
お願いします!!

